FREER GALLERY OF ART
WASHINGTON, D. C.

よいさはてこうくらもちのあ
のまとをとをもちりんとく
来のまさしれて二人母ひ
いてふちろくとけ入
てきりしたすてそらの人
てをおちやうたなさいまほ
てをおちやうたなさいまほ
くわろさぬの引をへめる
こくなるたさのさとのこ
みをわてをちこし孫の
まつえてくりてんをこり
けのりそちふこけて
くふさのかうえうちえ
さへそうてんろくいく

くなくこうつさうあうえん
のまさはらさんくの
うををさなくんやう
こうれたわとをれ
うふうをまさしてあつて
ふむあしとろそあたう
をおたに人のをちこわも
せいくうんちとあきいく
おれをれすてあきいく
小のこちろこてもしし
あてさんようてやう
おくのまたるしれをえ

くさうてん上人ありき
人こはしまいそきこゑう久
よとゝきたいしてこれもおの
さうきうの神ぢうその中よ
あはれとおりき人さこゑう分
のまゝにらわろつゝもうの
しさ我ものをこゝものゝ清
んきいつの世ようにとう久分
とくわりうをものゝてゝ
ひをいつくうちをにまいる時
あけくれ出をうこをうまく
にしく思ひよるくく
二日までうこをなまし清
きんさんよ人をわうりうう
んのうちいそわうあう
待ちれをしもわれわさ
うえきそれくその後へを
ぬそうこうけのをこる
のてしまさつきれをへて
くりれをさんこのちん
おようくこのこうをこの
て三この後のうちけそ
めうこよひまそなわれ
うおやまの下まている歌
のふれなくこうこうんをん
してうをもありとそ

ことさらんやういとつまら
おりくよ神をとりてか
くれかまをそたてまる
むてうけとくものろ
うさくなくいてうし
このつまをまるとよ迎
をそへあるふのこれ
ひをたんもそをかう
めいてんまいうう
そなる意をしてさんろ
とよそれおひりはりひを
そもと毎のうねをわ
ふふえれ祈をまいそ

まろんたくれ礼
さくらくせういて
かさりやうもの
くうんさの
はをんく
乃きく
をる
事も
なわ

かくて来もあけうこになわ
れもこころもいきて
ものゝいふをもんとてこゝの千
つもやうにうんうんとつゝ
まうらもんうのみりんとつゝ
もとみてくようつもあけて
ゆまへよさしを見かもを
人めつゝまれてゆくお
もしくとやうくらも
勢のよへ我うまう残
そしめてゆくる事て
つもこのはうる
よいをものてまこりて

さいしやうの君、祖やまうでたまへるに、
ことわりなることのうへにさへ、中〳〵
のどやかに、ものもえいはれたまはず、
涙のこぼれたまふを、祖もいとかなしう
て、ものもえのたまはず、
祖そやそともなき浦風に
なみよせてなくさみよ海
人もものをもつつまじ
とひとりごちて、秋の月のまへ
にそでをかたしき、ねやの内にも
ふすことまれなるころ

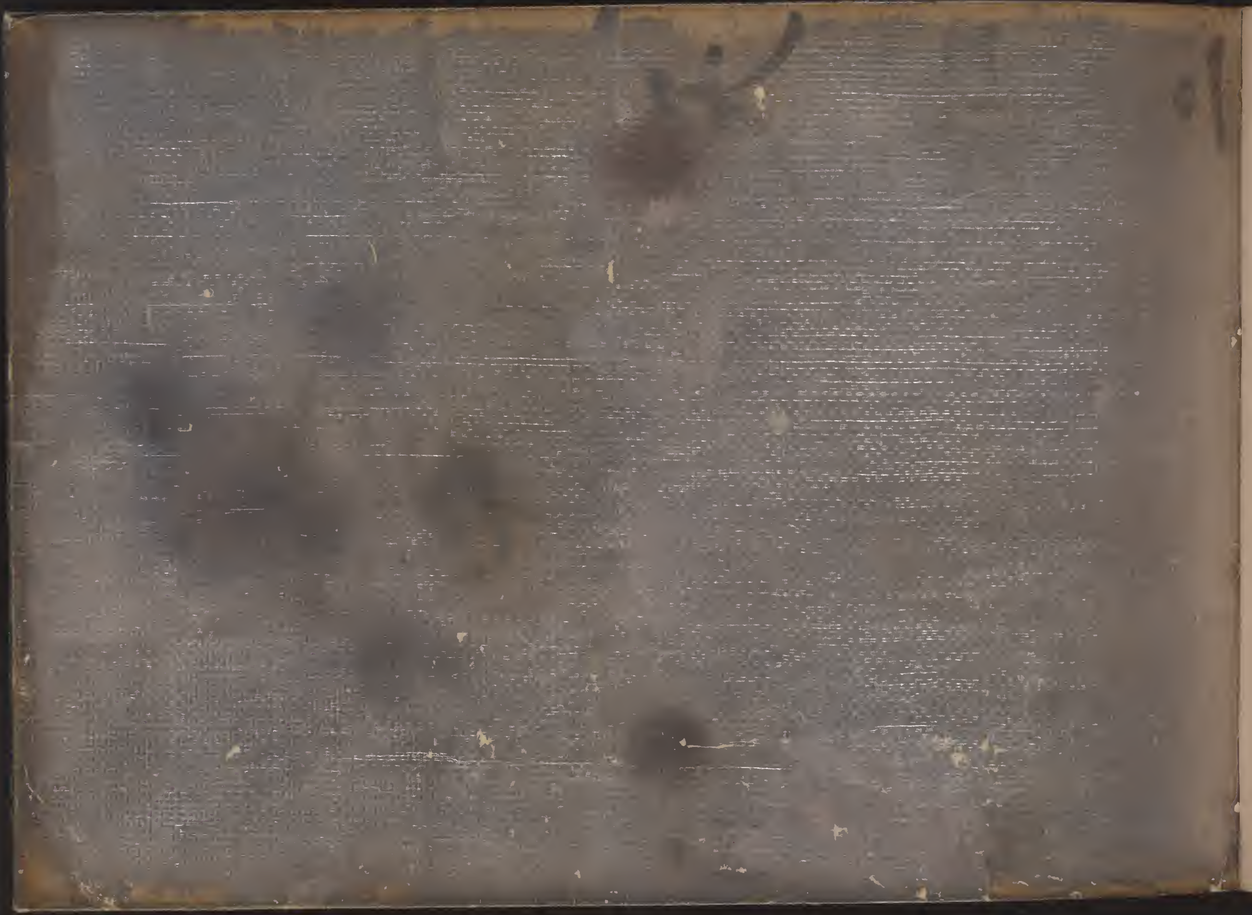
の国ことに、えもいはずくふうして、時のおりふしにつけてはいろいろのうつくしきものどもをつくりいだしたるを、人もの、それもいかなるもののきはめをつくしてきせいしのふれうをもましくて、小さくいとうつくしたいしのいてうつくしきをまふさまふさにうゑたるを、天竺わたりなどもかくやとおぼゆるまで、いろいろのいとをもてそのつゆをかけたるやうなるに、あまたのめでたきものどもをうつしいでたるやうなるに、つきのかつらにいとをかしきをうゑたるやうなるに、そのつゆをつゆとも見えずして、ただ水のやうにひろごりたるをみるに、ひろごりたるのこりなくかれたるもまたをかしきものなりかれたるをとりすてんとするに、ねもとまでとりすててうつしたるやうにてあるを、いかでかくはとりすてたるぞとあやしがりてとりあげたるに、ねもとのこりてあるをうゑたるにやとおぼえてあるを

じえうつよくてひめぎみをとりつきものふしぎありけてこそとうとりいれ人々おもてろさいたにはそのいろとやとくすゝ（はゝ）てまもりけるうへもなうつきそひろういなのめひさせのみやつこさなるちゝおもりのそとめてこそ事なれとてよろこひいるるなの処なるにさりなるみちつくるもとれそたにもろんの物くもろもつをの〳〵もとれ

みとといよくふしさにおりめ
しさうそくりん人をもりく
きうかゝとて男りん六年別
よせんとそこそのそたく
のあこよ作てこそもろうか
ままそのうえなくうさし
りうさんくれ官人その日よ
くわてなんとやう家風れ
こくしい者十日をへてさやうの
人ものとふ物をそ也るさ
男となるやとをんうなく
おりしめとかまわるたいそんの
ゆりるい六連られさんとうさの

さうの今けまでよりもふとりめ
とてはや年うちとみさう
へてたう此人をあやしまき
そうしたれいさてそれなるう
んでていそきちよとてまれ
りわその時よりちよとて氣萬
のた中年までさいあうのあま
てそこなわかのおよりあんな
いをなくへなまへいさやう
伊まへてまいをいとの話
ひうそこをこもうくう
まれた年年なうふそ
もしまへいさいたちまこの
而まおいをるやうのりとさるま
さいまそてまうまをま
れることろなく尋のまわ
そやくまんたいまへしとて
そる物をとりあへまうにめ
させられてさいやう夜着
まをまてあこととれなまりて
のかよおとろきまへともよ
くしゆるしたまいをき
まやこのりまわ

いまて世をいとふ人なれと
立信のきやうそくめされし
いそしへの二信ほさいしやう
きやうそくして元のかたへ
おのふうとはそそちくめ
されてそのちほうそれ
ふくまてさそもや我
うま乙ありとそかのこんさ
をあ
ふさいしやうも通を
見まいてそつとおすいられて
ござなるそなよのうちをち
らそのとなく後う
なそもほ



代てなわとかわ色をそつて
とくよくうたをもふうふの
えんをむすぶのせんをの柱り
あさうらとのうれ世うけそこの
もしく神ぬきあし中ほ
さうしよ色そうろんとなくうら
ふるさけれまそけてのそまさ
るよ位をそこうえ多くへさるに
たうらをうけお入人へ神をう
らねまもくふつきう高う
れ家とそなうふなれ